

オオエンコウガニ 南東大西洋

Deep-sea red crab *Chaceon erythrae*



(図版：SEAFO Stock Status Report より)

管理・関係機関

南東大西洋漁業機関 (SEAFO)

生物学的特性

- 最大体長（甲長）：雄 13.2 cm・雌 11.3 cm、最大体重：雄 780 g・雌 420 g
- 寿命：15 歳前後
- 性成熟年齢：不明
- 産卵期・産卵場：産卵期（不明）・産卵場（Valdivia Bank）
- 索餌期・索餌場：索餌期（不明）・索餌場（Valdivia Bank）
- 食性：死骸も餌とする雑食性
- 捕食者：オレンジラフィー等大型魚類

利用・用途

本種は、主に缶詰、ほぐし身として利用される。

漁業の特徴

SEAFO における本種の漁場は B1 海域内 Valdivia Bank の限られた場所で、主に日本とナミビアがかに籠船で操業を行ってきている。

漁獲の動向

SEAFO 設立（2003 年）以降、2016 年と 2019 年を除き、2021 年まで毎年 1～3 隻のかに籠船が操業を行ったが、2025 年は 4 年ぶりに本種に対する日本船の操業が行われ、92 トンが漁獲された。操業のあった年の漁獲量は、5～808 トンの間で変動し平均約 185 トンであった。2007 年に最大漁獲量 808 トンを記録した。

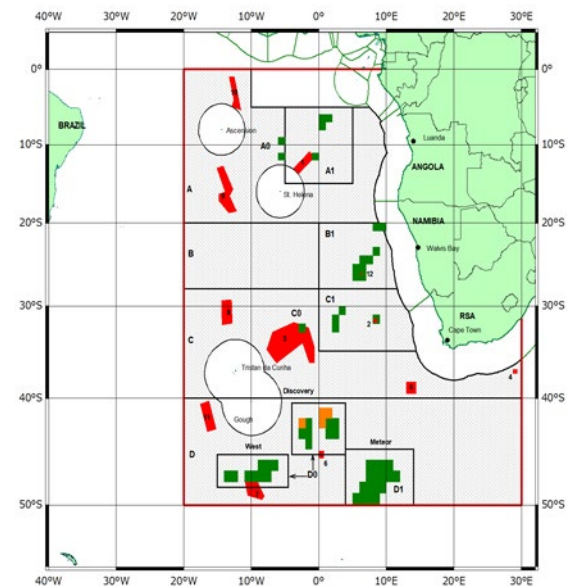
資源状態

資源豊度指数（標準化した単位努力量当たりの漁獲量（CPUE））によると、2013 年まで豊度指数は年変動を示しつつ増加傾向であったが、それ以降は低水準で推移している。2005 年から 2007 年に平均約 501 トンの高漁獲があり、その後も総漁獲可能量（TAC：200 トン）に近い漁獲量が 6 年間続いた。おそらく高漁獲の影響で加入量が急減し、そのコホート（同世代群）が寿命 15 年のオオエンコウガニ資源量に悪化をもたらし、2015～2017 年に豊度指数が急減したものと考えられる。2021 年の CPUE はピーク時（2013 年）の約 10% まで落ち込んでおり、科学委員会で資源状態の悪化が懸念されている。資源水準はこれまで資源評価が合意されていないため不明、資源動向は最近の CPUE が減少傾向にあるため減少と、それぞれ判断した。

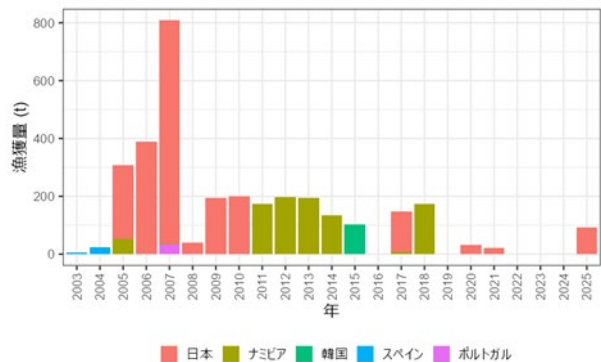
管理方策

管理措置決議 CM30-15 では、底魚漁業、禁漁海域、脆弱な海洋生態系（VME）を含む深海生態保全、科学オペレーター乗船義務、開発漁業等の規則が定められている。TAC 設定規則では、科学委員会で合意された資源評価結果が無い場合漁獲管理ルール（HCR）で TAC（2 年毎）を決定することが合意されている。HCR は、最近 5 年間の CPUE の平均的傾きに基づくものである。合意された資源評価が現在までないため HCR で TAC が決定されている。2022 年以降の漁獲が無いため、2025～2026 年の TAC は、2024 年に算出された TAC が継続され、B1 海域で 162 トン（他の海域では HCR を使用せず以前と同じ 200 トン）である。その他の管理方策には、CM04-06（サメ類保全）、CM14-09（海亀類保全）等がある。

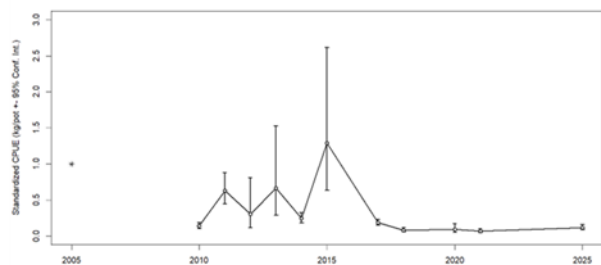
オオエンコウガニ（南東大西洋）の資源の現況（要約表）	
世界の漁獲量 (最近5年間)	0~92トン 最近(2025)年:92トン 平均:22.4トン(2021年~2025年) (2022年~2024年の操業は無く2022年は混獲1トン未満)
我が国の漁獲量 (最近5年間)	0~92トン 最近(2025)年:92トン 平均:22.4トン(2021年~2025年) (2022年~2024年操業無し)
資源評価の方法	体長コホート解析及びY/R (Yield per Recruit) 解析
資源の状態 (資源評価結果)	2014年に体長コホート解析及びY/R (Yield Per Recruit) 解析が行われたが、使用した成長式が他海域からの代用であったため、科学委員会は正式な結果としては認めなかった。 しかし、解析結果から漁獲圧が最大持続生産量(MSY)を実現するレベルを下回っていると考えられている。 2021年のCPUEはピーク時の2013年の約10%まで落ち込んでおり、科学委員会で資源状態の悪化が懸念されている。 資源水準:不明(資源評価が合意されていないため) 資源動向:減少(最近の標準化CPUEが減少傾向にあるため)
管理目標	HCRに基づくTAC(2025~2026年)(B1海域:162トン、その他の海域200トン)
管理措置	<ul style="list-style-type: none"> ● 底魚漁業、禁漁海域、VMEを含む深海生態保全、開発漁業等の規則 ● B1海域における2025~2026年TAC162トン、その他の海域200トン ● サメ類保全措置 ● 海亀類保全措置
管理機関・関係機関	SEAFO
最新の資源評価年	2014年(資源評価は今まで2014年のみ実施されたが、科学委員会で結果は合意されなかった)
次回の資源評価年	未定



SEAFO 条約域とオオエンコウガニ主漁場 (SEAFO B1 海域 Valdivia Bank)



SEAFO 条約海域におけるオオエンコウガニの年別・国別漁獲量 (2003~2025年)
(注) 2022年南アフリカのトロール漁船による混獲(1トン未満)があった。



SEAFO B1 海域 Valdivia Bank におけるオオエンコウガニ資源量豊度指数 (標準化 CPUE) の推移 (2005~2025年)
(注) 2005年の指数は*で表示。
2006年~2009年の指数は、CPUE データが無いため不明。